

104-286

問題文

82歳女性。以前より意識清明であったが、記憶力の低下を指摘されていた。今回、トイレに行こうとして転倒し、大腿骨骨折のため整形外科に入院した。

入院中に認知機能の低下、パーキンソニズム、レム睡眠行動障害が現れたほか、PETにて後頭葉の血流低下を認め、アルツハイマー型以外の認知症が強く疑われ、ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠による治療が開始された。

問286

この患者の認知症の病態と症状に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. 幻視が現れることが多い。
- 2. 病理組織学的には、大脳にレビー小体が認められる。
- 3. 記憶障害は周辺症状である。
- 4. ニコチン性アセチルコリン受容体に対する自己抗体が存在する。
- 5. 運動ニューロンが傷害され、全身の筋力低下が認められる。

問287

ドネペジル製剤の医薬品リスク管理計画書(RMP)の概要から、下記のような「重要な特定されたリスク」が確認できた。これらの回避のために、薬剤師の対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

| 安全性検討事項 |
|---|
| 【重要な特定されたリスク】 |
| 徐脈、心ブロック、洞不全症候群、洞停止、QT延長、 心室頻拍（torsades de pointesを含む）、心室細動、失神 |
| 消化性潰瘍、十二指腸潰瘍穿孔、消化管出血 |
| 消化器症状（食欲減退、悪心、嘔吐、下痢等） |
| パーキンソニズム |
| 心筋梗塞、心不全 |
| 肝炎、肝機能障害、黄疸 |
| 脳性発作、脳出血、脳血管障害 |
| 悪性症候群 |
| 横紋筋融解症 |
| 呼吸困難 |
| 急性膵炎 |
| 急性腎不全 |
| 血小板減少 |

- 1. 心機能のモニタリングの必要性を医師に伝える。
- 2. 急性膵炎予防のため、カモスタットメシル酸塩錠の併用を医師に提案する。
- 3. パーキンソニズムが悪化した場合、ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の増量を医師に提案する。
- 4. 消化性潰瘍予防のため、ランソプラゾール口腔内崩壊錠の投与を医師に提案する。
- 5. 血小板減少の早期発見のため、出血などに注意することを医療従事者間で情報共有する。

解答

問286：1, 2問287：1, 5

解説

問286

パーキンソニズムが現れている点などから、**レビー小体型認知症**と読み取ります。

選択肢 1,2 は妥当な記述です。

レビー小体型認知症に特有の症状が、幻視、パーキンソニズムなどです。レビー小体とはタンパク質の一種です。レビー小体が脳皮質に広く現れることが原因とされています。

選択肢 3 ですが

「周辺症状」とは、認知症の発症において、個人差が見られる症状のことです。徘徊などが代表例です。一方、原則として全ての人が発症するのが「中核症状」です。物忘れが激しいといった「記憶障害」が代表例です。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

記述は重症筋無力症についてです。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

記述は ALS（筋萎縮性側索硬化症）についてと考えられます。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、問286 の正解は 1,2 です。

問287

選択肢 1 は妥当な記述です。

選択肢 2,4 ですが

それぞれ、急性膵炎予防のため、消化性潰瘍予防のためという用法はありません。よって、選択肢 2,4 は誤りです。

選択肢 3 ですが

パーキンソニズムが悪化した場合は、ドネベジルの「減量」の提案と考えられます。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 5 は妥当な記述です。

以上より、問287 の正解は 1,5 です。